

2019 年度特別支援学校と高等学校との交流及び共同学習実施事業

交流及び共同学習における取組例

県立東はりま特別支援学校

活動の実際（単元名）

地域行事「大中遺跡まつり」において交流及び共同学習を実施

第1次 事前交流（1時間） 第2次 大中遺跡まつり（7.5時間）

指導目標

- ・生徒会を中心とした交流及び共同学習を計画的・継続的に実施し、両校の相互理解を図る。大中跡まつりに共同出店し、主体的に地域に関わろうとする態度を育てる。
- ・播磨南高生と協力して模擬店を運営するとともにコミュニケーション能力を育てる。

生徒の実態

知的障害支援学校高等部に在籍する2、3年生で、自ら立候補し生徒会役員になったメンバーである。月目標決めや文化祭での司会、球技大会の企画・運営など生徒会活動に積極的に取り組んでいる。人との関わり方やコミュニケーション能力には個人差があるが、明るく優しい集団で交流及び共同学習についても一生懸命に取り組むことができる。

事前学習

10月21日（月）に地域連携施設において、本校生徒会役員と県立播磨南高校の生徒会役員が「大中遺跡まつり」に向けての打合せを行った。自己紹介の後、お互いのゲームの説明や体験を通して交流を深めた。また、実際にお客さんが来られた時の様子を想定して両校の係りの動きを確認した。

学習活動（具体的な取組）

- 1 出店準備
- 2 開店
 - ・本校ブースでゲーム運営をする
 - ・本校ブースで販売をする
 - ・播磨南高ブースでゲーム運営を手伝う
- 3 閉店
 - ・後片付けをする
- 4 交流タイム
 - ・記念写真を撮る
 - ・感想を発表する

支援と留意点

- ・安全に運搬できるよう支援する。
- ・シフト表を掲示し、見通しを持って主体的に活動できるよう支援する。（みんなの動きが分かる表、自分の動きが分かる表を用意）
- ・丁寧な接客を心がけるよう促す。
- ・生徒の実態に応じて釣銭の確認をする。
- ・大中遺跡まつりの見学や他のブースで買物ができる時間を設ける。
- ・協力して安全に片づけるよう促す。
- ・発言しやすい和やかな雰囲気を作る。

評価

昨年よりも早めに準備したので、生徒が主体的にゲームの内容についても考え、改善できルールへの理解を深めることができた。時間的余裕は生徒の主体性を導き、企画や運営に参加する喜びや成功体験から自信が付き意欲の向上が見られた。また、同じメンバーとの交流を継続することにより、最初緊張していた生徒も回数が増えるに従って自然に会話ができるようになったことは、コミュニケーション能力の向上と自己肯定感の高揚に繋がった。

活動の様子



事前活動で本校生が播磨南高生にのり当てゲームの説明をしている。



当日、播磨南高校ブースで本校生がボウリングの手伝いをしている。

事後学習

- ・生徒玄関に設置されている生徒会掲示板を活用し、大中遺跡まつりでの活動や交流の様子、生徒の感想を校内に伝えた。また、播磨南高等学校へ生徒のメッセージを届けた。
- 【メッセージの一部】
- ・東はりまのゲームでは播磨南の人といっしょにやって楽しかったです。播磨南が困っていたら、すぐに手伝うことができました。播磨南のゲームではボウリングがわからないとき教えてくれました。的あてを手伝ってくれてありがとうございました。
 - ・この間の大中遺跡まつり、ありがとうございました。播磨南高校の皆さんと一緒にお話をしたり、ゲームのお手伝いをしていたら、あっという間に時間が過ぎていきました。また、次回もよろしくお願ひします。

成果と課題

【成果】

生徒会役員7名が「大中遺跡まつり」に参加し、ゲームの運営と作業学習で作った製品の販売を行った。また、播磨南高校のゲーム運営にも協力した。たくさんのお客さんが来て、販売は好調で、ゲームも景品が全て無くなった。生徒たちは播磨南高生と協力して仕事をし、様々な話をしながら交流することができた。朝から夕方までの活動だったが、生徒たちは頑張って活動に取り組み、有意義な時間を過ごすことができた。また、7月からゲームを考え始め、9月からゲームグッズ作りやルール決めを行い事前活動までにゲームを完成させた。昨年度と比較すると完成度が高かった。さらに、高校のブースと隣だったので、移動しやすく両校の活動の様子が分かり良かった。事前交流で打ち合わせをしていたので、当日はスムーズに交流でき和やかな雰囲気だった。

【課題】

事前交流での自己紹介はあったが、当日は準備に追われ両校で自己紹介することができなかった。一緒にブースで仕事をする前にもう一度自己紹介できるよう時間調整する必要がある。